
資料編

- 1 計画策定の経過と体制
- 2 市民アンケート調査及び市民ワークショップ等の結果概要
- 3 用語集

1 計画策定の経過と体制

本計画は、上位計画である「調布市環境基本計画」の改定と連動させながら、策定を進めました。

(1) 計画策定の経過

開催時期		会議等	主な議題
令和元年度	10月12日～ 10月27日	調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート調査	
	1月25日	調布市環境基本計画中間報告会 ～みんなで語ろう ちょうふの環境のいまとこれから～	
令和2年度	7月6日	第1回調布市環境基本計画等改定委員会	・調布市環境基本計画改定について ・調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定について ・市民ワークショップの開催について
	7月27日	調布市環境調整協議会	・調布市環境基本計画（骨子）について ・調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定について
	8月24日	調布市環境保全審議会	・検討状況の報告
	9月30日	調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定の方向性に関して改定委員会委員に意見聴取（メール）	
	10月21日	第3回調布市環境基本計画等改定委員会	・調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（たたき台）について
	10月5日～ 10月22日	未来につなぐ調布の環境（メール・FAX等）	環境施策・事業のアイデア募集
	10月24日	未来につなぐ調布の環境	市民ワークショップ（対面型）開催
	10月30日	未来につなぐ調布の環境	オンライン座談会開催（ZOOM活用）
	12月18日	第4回調布市環境基本計画等改定委員会	・調布市環境基本計画（素案）について ・調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案）について
	12月21日	調布市環境保全審議会	・検討状況の報告
	1月20日～ 2月18日	パブリック・コメント	
	2月22日	調布市環境保全審議会	・検討状況の報告
	3月26日	第5回調布市環境基本計画等改定委員会	・パブリック・コメント結果について ・調布市環境基本計画（案）について ・調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

※「調布市環境基本計画等改定委員会」については、本計画に関する検討を行った回のみ記載しています。

(2) 計画策定の体制

① 調布市環境基本計画等改定委員会

(令和2(2020)年4月1日～令和3(2021)年3月26日)

区分	所属・役職	氏名
市民団体	ちょうふ環境市民会議理事	岡部 和平
市民団体	調布 ^{あす} 未来のエネルギー協議会代表理事	小峯 充史
事業者	東京ガス株式会社東京西支店課長代理	桑原 一将
事業者	東京電力パワーグリッド株式会社武蔵野支社渉外担当	服部 茂 (R2.7.6～R2.9.30) 藤野 一 (R2.10.1～)
事業者	調布市商工会長	柳澤 勇
学識経験者	東京大学生産技術研究所エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門特任教授	◎岩船 由美子
学識経験者	調布市廃棄物減量及び再利用促進審議会会長	江尻 京子
学識経験者	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授	○奥 真美
東京都関係機関	東京都地球温暖化防止活動推進センター長	横田 信博
教育委員会	調布市教育委員会指導室長	執行 純子
行政	調布市環境部長	岩本 宏樹

(選出区分ごと五十音順, 敬称略, ◎: 委員長, ○: 副委員長)

② 調布市環境保全審議会

■第13期委員（任期：令和元（2019）年7月3日～令和3（2021）年3月31日）

区分	所属・役職	氏名
市民	公募市民	大黒 栄二
市民	公募市民	草竹 由美子
市民	公募市民	中井 眞行
市民	公募市民	藤丸 卓男
市民	公募市民	三宅 久美
事業者	鹿島建設株式会社技術研究所プリンシパルリサーチャー	近藤 宏二
事業者	調布市内農業従事者	関森 道子
学識経験者	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授	奥 真美
学識経験者	理学博士	齊藤 亀三
学識経験者	東京農工大学農学部環境資源科学科教授	◎高田 秀重
学識経験者	工学博士	○中岡 章
行政機関職員	東京都福祉保健局多摩府中保健所生活環境安全課長	大貫 奈穂美
行政機関職員	東京都環境局多摩環境事務所長	木村 真弘

（選出区分ごと五十音順，敬称略，◎：会長，○：副会長）

③ 調布市環境調整協議会

構成	
○行政経営部次長	福祉健康部次長
総務部次長	◎環境部次長
市民部次長	都市整備部次長
生活文化スポーツ部次長	教育部次長
子ども生活部次長	（◎：会長，○：副会長）

④ 調布市環境調整協議会 環境基本計画推進部会

部名	職名
行政経営部	政策企画課長
生活文化スポーツ部	農政課長
環境部	◎環境部次長 ○環境政策課長，環境政策課生活環境担当課長，緑と公園課長 下水道課長，ごみ対策課長
都市整備部	都市計画課長，街づくり事業課長，道路管理課長，交通対策課長
教育部	教育総務課長，指導室長

（◎：会長，○：副会長）

2 市民アンケート調査及び市民ワークショップ等の結果概要

(1) 調布市環境基本計画の中間見直し等に関する市民アンケート調査結果概要（地球温暖化対策関連事項）

①調査概要

ア 目的

調布市環境基本計画の見直しに向けた基礎資料として、以下の事項を把握する。

- ①環境問題に対する調布市民の意識水準
- ②市の施策に対する評価と期待
- ③環境に配慮した行動の取組状況
- ④市民協働の促進に向けた課題と市民の意向

イ 調査対象

調布市に住民登録をしている満16歳以上の市民3,000人(住民基本台帳より無作為抽出)

ウ 調査方法

郵送配布，郵送回収

エ 調査実施期間

令和元（2019）年10月12日（土）～令和元（2019）年10月27日（日）

オ 回収数・回収率

A 発送数	3,000
B 有効回収数	1,321
C 有効回収率（ $B/A \times 100$ ）	44.0%

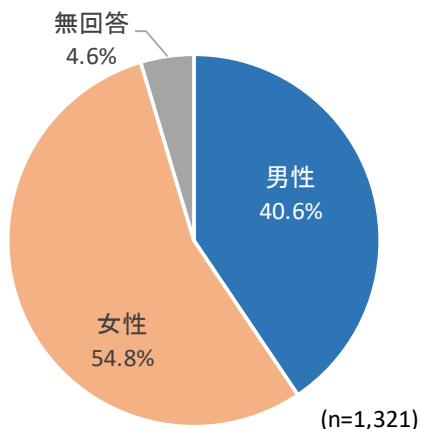
カ その他

集計に当たって小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。

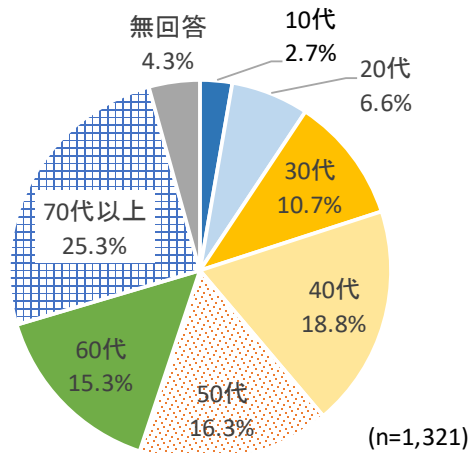
②回答者属性

- 回答者の性別は、男性約 40%，女性約 55%で、女性がやや多い。
- 年齢は、70 代以上が約 1 / 4 を占め、最も多い。
- お住まいの地域は、南部地域が約 3 割で最も多い。

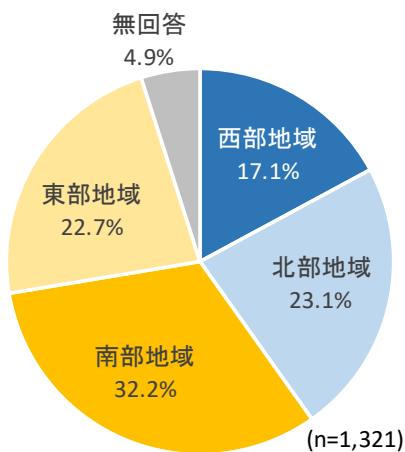
(1) 性別 (単回答)



(2) 年齢 (単回答)



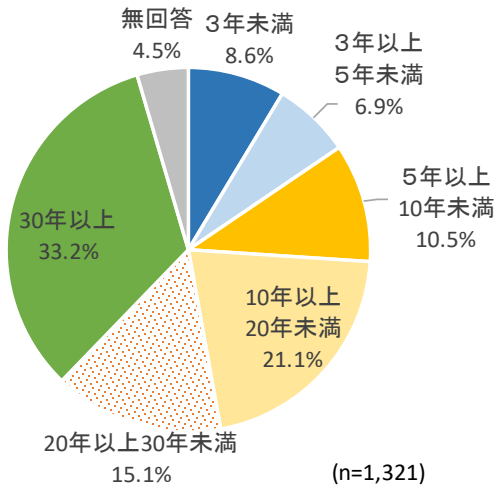
(3) お住まいの地域 (単回答)



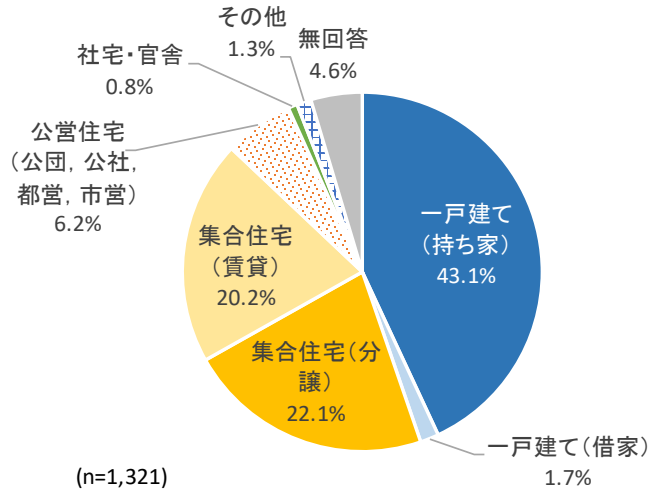
地域	町名
西部地域	飛田給, 上石原, 富士見町, 下石原 多摩川 1・2 丁目, 野水, 西町
北部地域	佐須町, 柴崎, 調布ヶ丘 3・4 丁目 深大寺元町, 深大寺北町, 深大寺東町 深大寺南町
南部地域	小島町, 布田, 国領町, 染地, 多摩川 3～7 丁目, 調布ヶ丘 1・2 丁目 八雲台
東部地域	菊野台, 東つつじヶ丘, 西つつじヶ丘 入間町, 仙川町, 緑ヶ丘, 若葉町

○調布市における居住期間は、20年以上が約半数を占めている。
 ○住宅の形態は、一戸建て（持ち家）が約4割で、次いで集合住宅（分譲）が約2割となっている。

(4) 調布市における居住期間（単回答）



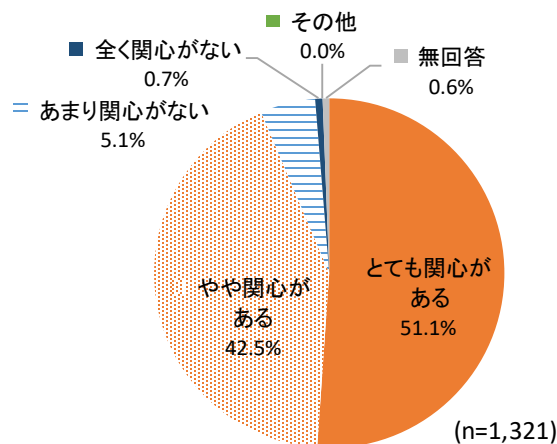
(5) お住まいの形態（単回答）



③各設問の集計結果（地球温暖化対策に関連する設問を抜粋して掲載）

問 あなたは、地球温暖化問題に関心がありますか。（○は1つ）

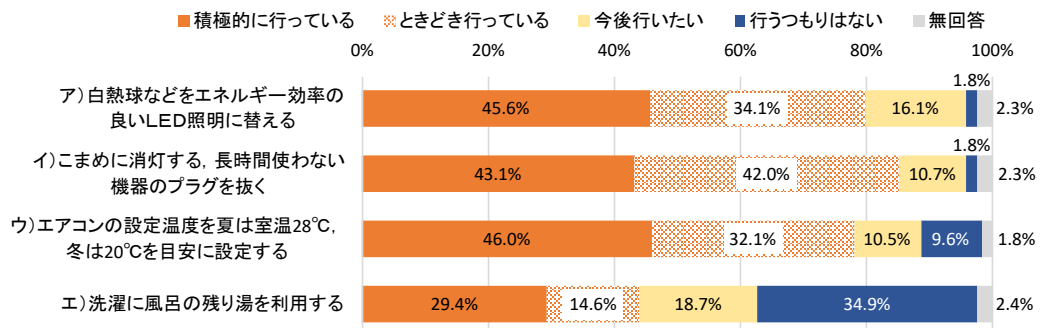
○「とても関心がある」（51.1%）が最も多く、次いで「やや関心がある」（42.5%）が多い。
 ○「問1 環境に関すること」と同様に、回答者の9割以上が地球温暖化問題に関することに一定の関心を持っている。



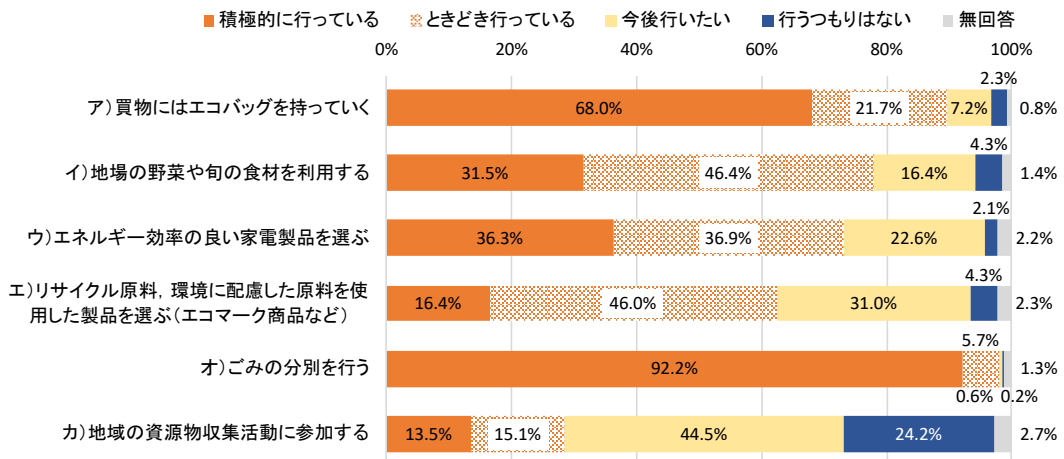
問 あなたの環境に配慮した行動への取組状況を教えてください。(〇はそれぞれ1つ)

- 住宅や機器の所有状況に関係なく、市民の意識次第で実行可能な「①省エネルギーに関すること」、「②消費、資源・ごみに関すること」、「⑤地域の環境保全に関すること」について、「積極的に行っている」と「ときどき行っている」を合計した割合が高い行動は、「ごみの分別を行う」、「買い物にはエコバッグを持っていく」、「こまめに消灯する、長い時間使わない機器のプラグを抜く」である。
- 「積極的に行っている」と「ときどき行っている」を合計した割合が低い行動は、「環境教育や学習に関する活動に参加し、環境への理解を深める」、「身近な緑や水を守る活動に参加する」、「地域のごみ拾いなど環境美化活動に参加する」、「地域の資源物収集活動に参加する」等、環境学習や啓発、実践活動に関わる行動が多い。しかし、「今後行いたい」と回答した割合も高いことから、関心はあるが、参加するきっかけがない状況にあると推測される。
- 所有状況により対策の実施可否が大きく変わる、「③自動車に関すること」、「④住宅に関すること」については、「窓ガラス、サッシ、ドアを断熱性・気密性の高いものにする」、「高効率給湯器を導入する」、「エコドライブを実践する」など、導入コストがかからない、もしくは比較的安い対策について「すでに行っている」の割合が高い。

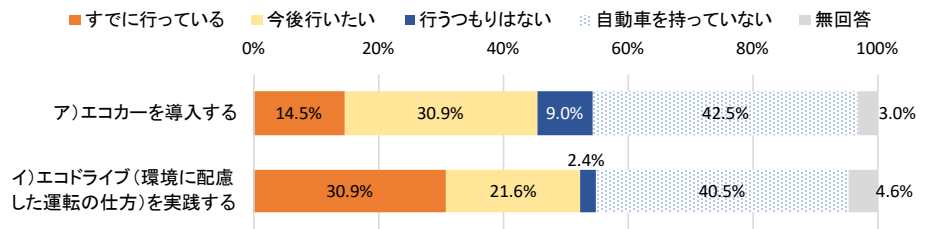
①省エネルギーに関すること



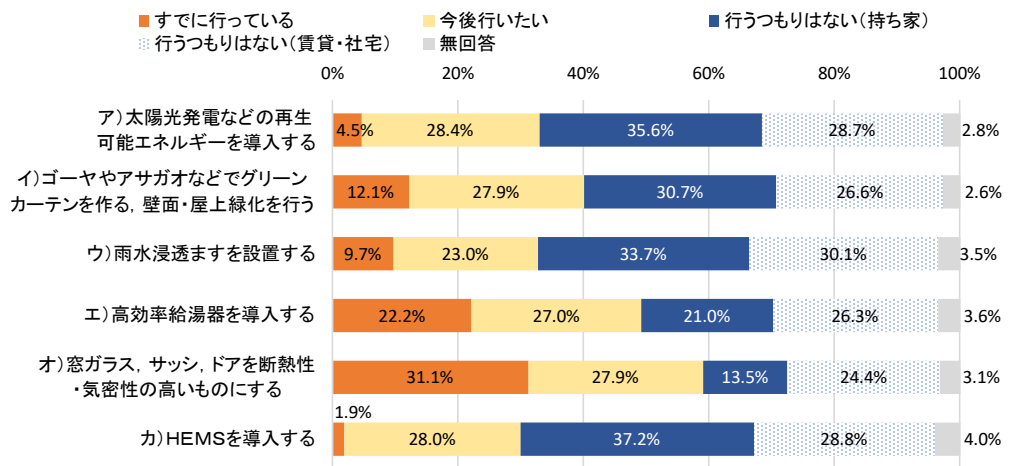
②消費、資源・ごみに関すること



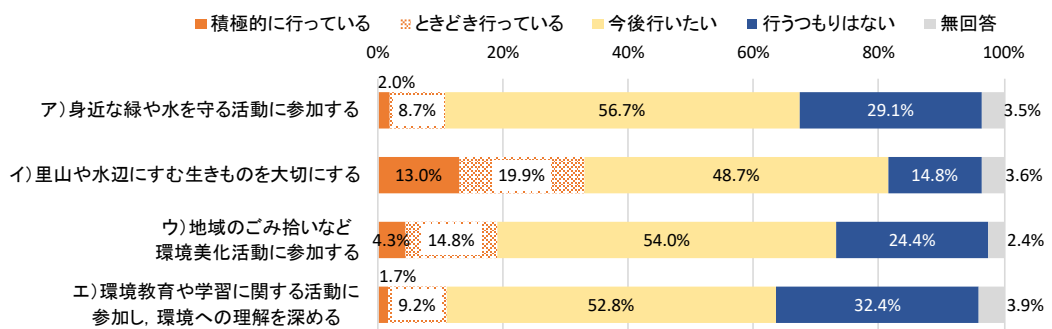
③自動車に関すること



④住宅に関すること



⑤地域の環境保全に関すること

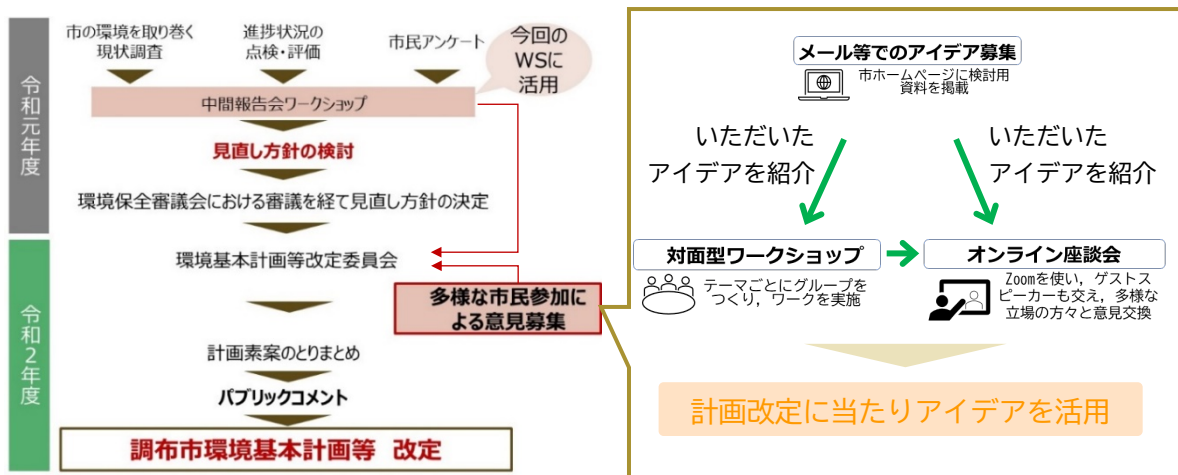


(2) 未来につなぐ調布の環境 市民ワークショップ実施結果（地球温暖化対策関連事項）

①開催内容

ア 目的

「調布市環境基本計画」（平成 28 年 3 月）及び「調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の改定に当たり、今後の環境に関する取組についてアイデアをいただくため、「メール等でのアイデア募集」、「対面型ワークショップ」、「オンライン座談会」を開催した。



イ テーマ

国や東京都の環境施策の動向や、令和元年度に実施した「市民アンケート調査」、「市民ワークショップ」等から整理し、設定した。

本項は、下記のテーマのうち「ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル」に関する事項を抜粋し、掲載した。

里山環境の保全

【アイデアをお寄せいただきたいこと】

- 里山の魅力を発信し、保全活動への新規の参加者を増やすには？
- 樹林地、水辺、農地が一体となった環境を守っていくためには？

ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル

【アイデアをお寄せいただきたいこと】

- 住居や車等から排出される二酸化炭素を減らす暮らし方は？
- エネルギーや温暖化について効果的な情報発信は？
- 暮らしの中で異常気象に伴う熱中症対策を進めるには？

環境保全活動の体験

【アイデアをお寄せいただきたいこと】

- 子どもたちや若い世代に情報を届け、活動に参加できるようにするには？
- 環境教育・環境学習を充実させるには？
- 関心はあるが活動に参加していない層が気軽に参加できるきっかけをつくるには？

ウ 開催概要

それぞれの開催概要は以下のとおりである。

オンライン座談会は、意見が出やすいよう、テーマを「② ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル」に絞って実施した。

	手法		
	メール等でのアイデア募集	対面型ワークショップ	オンライン座談会
期間/ 開催 日時	令和2年10月5日(月) ～ 10月22日(木)	令和2年10月24日(土) 午後2時～4時	令和2年10月30日(金) 午後3時～4時30分
場所	—	教育会館 2階会議室	受託業者社内
対象の テーマ	①里山環境の保全 ②ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル ③環境保全活動の体験	①里山環境の保全(1班) ②ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル(2班・3班) ③環境保全活動の体験(4班)	②ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル
実施 方法	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページに、これまでの経緯を取りまとめた資料と、意見を記入していただくご意見シートを掲載した。 資料を参考に、ご意見シートにご意見を記入していただき、メール、FAX等で意見をお送りいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマごとにグループを4つに分け、始めにワーク①，続いてワーク②を実施した。 ワーク① テーマごとに取組のアイデアを出しあった。 ワーク② ワーク①を基に、いちおしのアイデアを選び、実現のために市民・事業者・調布市ができることを出しあった。 	<ul style="list-style-type: none"> Zoomを活用して実施した。 事前に資料，URL，参加の注意点等を参加者にメール送付した。 当日は，ゲストスピーカーから事例紹介いただいたのち，テーマに基づいて意見交換を実施した。
参加人数/ いただいた ご意見	47件(人数：6人)	23人	9人 (ゲストスピーカーを含む)
協力		ちょうふ環境市民会議	ゲストスピーカー 調布まちなか発電(株) (非営利型事業者) 小峯充史 様

②いただいた主な意見

メール等でのアイデア募集，対面型ワークショップ，オンライン座談会の3つの手法でいただいたご意見の中から，ここでは「ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル」に関する事項を集約して掲載した。

【テーマ】ストップ地球温暖化！新しいライフスタイル

<メール等でのアイデア募集のアイデア>

【住居や車等から排出される二酸化炭素を減らす暮らし方は？】

- ・新築建物の低炭素化を進める。
- ・自転車で安全に移動できる道路網整備と広報活動を実施する。
- ・地産地消を強化する。

【エネルギーや温暖化について効果的な情報発信は？】

- ・調布駅前等，市民が集まる場所で情報発信（ポスター掲出等）をする。
- ・温暖化の影響度の分析と報告をする。

【暮らしの中で異常気象に伴う熱中症対策を進めるには？】

- ・再エネ・EV（電気自動車）等蓄電設備を活用して災害時のエネルギーを確保する。
- ・太陽光発電以外の発電（風力，バイオマスなど）を検討する。

<対面型ワークショップのアイデア>

■ 2班のワーク

ワーク① アイデア出し

【住居や車等から排出される二酸化炭素を減らす暮らし方は？】

- ・地産地消で輸送CO₂を減らす。
- ・生ごみを有効利用（燃やさない）する。
- ・移動にはできるだけ公共交通手段を使う。
- ・家庭への再生可能エネルギー導入の補助金申請をワンストップ化する。

【エネルギーや温暖化について効果的な情報発信は？】

- ・ゼロカーボンシティ宣言をする。
- ・発電イベント（ソーラー工作，風力発電）を子どもの工作会で実施する。
- ・自然エネルギー電力会社に切り替える簡単さを発信する。

【暮らしの中で異常気象に伴う熱中症対策を進めるには？】

- ・グリーンインフラ（屋上緑化など）を整備する。
- ・緑地保全を進める。



ワーク② いちおしアイデアと各主体ができること

アイデア名	エネルギーと食の地産地消	
アイデアの概要	市もしくは市の近くで発電されたエネルギーを使い，地元の農産物を積極的に活用する。	
実現のために 市民 ができること	<p>【エネルギー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元電力会社を選ぶ。 ・改築して再エネに転換する。 <p>【農】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家に生ごみを持参して堆肥化する。 ・ゼロ生ごみ化を進める。 	<p>【（取組を広げるための）キャンペーンの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくおいしく発見のあるイベントを駅前で行う。
実現のために 事業者 ができること	<p>【エネルギー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費を削減する。 ・再エネに転換する。 ・バイオ発電を検討する。 <p>【農】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の野菜を全てのスーパーで取り扱う。 ・都市農地でソーラーシェアリングを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーと食のマルシェを開催する。 ・えねこや×農家とのコラボを行う。
実現のために 調布市 ができること	<p>【施策・宣言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市農業を，温暖化対策を含む環境対策の中核に位置付ける。 ・気候危機宣言，2050 脱炭素シティ宣言，気候非常事態宣言をする。 <p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食に，地元で有機栽培された食材を使う。 <p>【助成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生分解性プラスチックのビニール袋の助成金を交付する。 ・既存住宅の断熱改修方法の講座を実施したり，補助金を交付したりする。 	

資料編

■ 2班による対面型ワークショップの様子



■ 3班のワーク

ワーク① アイデア出し

【住居や車等から排出される二酸化炭素を減らす暮らし方は？】

- ・新築住宅の低炭素化（断熱・再エネ・給油）をする。
- ・集合住宅の断熱化（窓の気密を高める）を進める。
- ・集合住宅の共有部を再エネ比率の高い電気にする。

【エネルギーや温暖化について効果的な情報発信は？】

- ・プラスチックの削減を企業に呼びかける。
- ・省エネ機器の買換え、適切な機器選定のための情報を提供する。
- ・エネルギー使用量の見える化を図る。（他の家との相対比較、省エネのアドバイスの情報提供等）

【暮らしの中で異常気象に伴う熱中症対策を進めるには？】

- ・太陽光による水素ステーションを設置する。
- ・拠点災害時に地域全体でエネルギーを供給する。

ワーク② いちおしアイデアと各主体ができること

アイデア名	ゼロカーボンショールームづくり
アイデアの概要	・ゼロカーボン*の取組を取り入れた施設を市内各所に設置し（学校、事業所、カフェ等）、ショールームのようにみることができるようにする
実現のために 市民ができること	・自宅に緑のカーテンを設置する等、ゼロカーボンの仕組みを少しでも住宅に取り入れる。 ・家庭の取組アイデアのコンテストを行い、紹介する。
実現のために 事業者ができること	・オフィスビル、カフェ等の施設をゼロカーボン化する。
実現のために 調布市ができること	・ゼロカーボンシティ宣言をする。 ・学校をゼロカーボン化し、学校教育にエネルギー教育を取り入れる。 ・市民や事業者の取組を表彰する。

※ゼロカーボン：二酸化炭素（CO₂）の排出量と吸収量のバランスがとれ、実質ゼロになっている状態

■ 3班による対面型ワークショップの様子



<オンライン座談会のアイデア>

【住宅・事業所で再エネの活用を促進していくためには？】

- ・再エネ導入によるメリット，最新の技術等の情報発信する場を調布駅のような人の集まる場所に設置する。
- ・太陽光パネルの設置にかかる費用や，必要な手続きが体系的に分かる機会をつくる（フェアを企画し情報発信をするなど）。
- ・住宅の熱を外に漏らさないための，身近な取組を発信する（住宅を断熱する方法と効果の発信等）
- ・行政による取組の評価，貢献度の見える化の仕組みを整える。
- ・太陽光パネルの設置のための補助金の申請手続きを簡素化する。
- ・食育と連動させて進める。
- ・学校教育にエネルギー教育を取り入れる。
- ・日頃の消費活動を見直し，プラスチックを使っていない日用品を取り入れる，地元の商品を使う等の取組を進める。

■オンライン座談会実施風景



3 用語集

※各用語に記載したページ番号は、初出のページを表します。

あ行	
アグリゲーター 〔p. 47〕	電力の需要家（家庭、事業所など）の需要量を束ねて、効果的にエネルギー管理支援、電力売買、送電などのサービスを仲介する事業者のこと。
えねこや 〔p. 43〕	自然の力でつくったエネルギーだけで心地よく過ごせる小さな建築（＝小屋）のこと。調布市に拠点を置く一般社団法人えねこやが普及を進めている。
オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」 〔p. 14〕	東京で暮らす人々にとって大きな課題である温室効果ガスの削減やみどりの保全について、東京都内の全 62 市区町村が連携・共同して取り組む事業。
か行	
カーボンニュートラル 〔p. 4〕	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いてゼロを達成すること。
気候変動に関する政府間パネル（IPCC） 〔p. 2〕	人為起源による気候変化とその影響について、また、そうした変化に対する適応・緩和方策に関して、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、昭和 63(1988)年に世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）によって設立された組織のこと。IPCCは、Intergovernmental Panel on Climate Change の略で、「気候変動に関する政府間パネル」と訳される。平成 25(2013)年から平成 26(2014)年にかけて第 5 次評価報告書が公表され、観測事実として地球温暖化は疑う余地がないこと、人間活動がその要因である可能性が極めて高いことなどが報告された。
グリーンインフラ 〔p. 55〕	社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組のこと。
グリーン購入 〔p. 41〕	製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。
グリーンスローモビリティ 〔p. 48〕	時速 20km 未満で公道を走ることが可能な 4 人乗り以上の電動パブリックモビリティのこと。
ごみ減量・リサイクル協力店 〔p. 22〕	市が認定した、ごみの減量やリサイクル活動（簡単な包装、買い物袋の持参活動、商売の業種に応じた資源の自主回収や下取りなど、市で定める認定要件の活動）を積極的に実施する小売販売店のこと。
さ行	
再エネ 100 宣言 RE Action 〔p. 4〕	企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を 100% 再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再生可能エネルギー 100% 利用を促進する新たな枠組み。

遮熱性舗装 〔p. 21〕	路面温度を上昇させる原因である赤外線を反射する遮熱材を路面の表面に塗布した舗装。舗装への蓄熱を防ぎ、路面温度の上昇を最大で8℃程度抑制する。
ゼロカーボンシティ 〔p. 4〕	2050年にCO ₂ （二酸化炭素）を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方自治体として公表した地方自治体。
た行	
脱炭素, 脱炭素社会 〔p. 4〕	今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡（世界全体でのカーボンニュートラル）を達成すること。
調布エコ・オフィス 〔p. 22〕	事業所等からの認定申請を受け、ごみ減量及びリサイクル活動への取組状況を審査し、認定した事業所。ゴールド、シルバー、ブロンズの3区分がある。
低GWP機器 〔p. 40〕	オゾン層破壊効果がなく、温室効果が小さい機器のこと。「GWP」は、地球温暖化係数（Global Warming Potential）の略称で、二酸化炭素を基準にして、ほかの温室効果ガスがどれだけ温暖化する能力があるかを表す数値を意味する。
電力調達における環境配慮契約 〔p. 41〕	電力を調達する際に、環境負荷ができるだけ少なくなるような工夫をした契約のこと。
透水性舗装 〔p. 21〕	雨水を積極的に地中に浸透させるため、透水性舗装材等（表層）の下に浸透層を設けた舗装。豪雨時などに起こる下水や河川の氾濫の防止、植生・地中生態系の改善、地下水の涵養等の効果がある。歩道や遊歩道、駐車場、公園等で利用される。
都市型水害 〔p. 27〕	地表面がコンクリートやアスファルト等の水が浸透しない舗装で覆われている都市において、短時間の局所的な豪雨等の際に、降った雨が地中に浸透せず、一気に下水道や河川に流れ込むことにより発生する水害のこと。
な行	
燃料電池 〔p. 21〕	水素と酸素を化学反応させて、電気を発電する装置のこと。燃料となる水素は、天然ガスやメタノールを改質してつくるのが一般的。発電と同時に熱も発生するため、その熱を活かすことでエネルギーの利用効率を高められる。
は行	
パリ協定 〔p. 3〕	京都議定書に替わる温室効果ガス削減の新たな枠組みとして、2015年12月フランス・パリで開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された協定。21世紀後半には温室効果ガス排出量を森林・海洋等による吸収量とバランスさせること、気温上昇を産業革命前と比べて2℃より低く抑え、1.5℃未満に抑えるための取組を推進すること、各国が2018年までに温室効果ガス削減のための計画を提出し、5年ごとに進捗を点検することなどに、世界196の国と地域が合意した。

フードドライブ 〔p. 53〕	家庭で余っている食品を持ち寄り、地域の福祉施設やフードバンクに寄付する活動のこと。
保水性舗装 〔p. 57〕	隙間の多い舗装に、水を吸い込み保持する保水材を詰めた舗装。保水材に浸み込んだ雨水が蒸発する時の気化熱によって、路面温度の上昇を最大で10℃程度抑制する。
アルファベット・数字	
BEMS (ビルエネルギー管理システム) 〔p. 40〕	Building Energy Management Systemの略。オフィスビル等において、機器・設備等で消費するエネルギーを管理し、削減を図るためのシステム。
HEMS (家庭用エネルギー管理システム) 〔p. 39〕	Home Energy Management Systemの略。家庭における省エネルギーを目的として、住宅等で消費するエネルギー需要を管理するシステム。
ESCO事業 〔p. 41〕	Energy Service Companyの略称。省エネルギー改修にかかる経費を改修後の光熱水費の削減分で賄う事業のこと。
ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング) 〔p. 35〕	建築計画の工夫による日射遮蔽・自然エネルギーの利用、高断熱化、高効率化によって大幅な省エネルギーを実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費するエネルギー量が大幅に削減されている建築物のこと。
ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) 〔p. 34〕	外皮の断熱性能等を大幅な向上、高効率な設備システムの導入によって室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支を正味(ネット)でゼロにすることを目指した住宅のこと。
3R (スリーアール) 〔p. 37〕	「リデュース (Reduce=ごみの発生抑制)」、 「リユース (Reuse=再使用)」、 「リサイクル (Recycle=再資源化)」の頭文字を取った言葉。循環型社会においては、「ごみを出さない」、「一度使って不要になった製品や部品を再び使う」、「出たごみはリサイクルする」という優先順位で、廃棄物処理やリサイクルに取り組むことが求められている。

登録番号
(刊行物番号)

2020-186

調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

令和3（2021）年3月

発行：調布市

編集：環境部環境政策課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

T E L 042-481-7086・7087

F A X 042-481-7550

電子メール kankyoushou@w2.city.chofu.tokyo.jp

